

平成 27(2015)年 10 月 25 日

各 位

情報コミュニケーション学会 会長 高見澤 秀幸
教育システム情報学会関西支部 支部長 西端 律子
日本情報科教育学会近畿・北陸支部 支部長 高橋 参吉
兵庫県教育工学研究会 会長 船倉 一郎 (兵庫県立飾磨工業高等学校長)
兵庫県高等学校教育研究会工業部会教育工学委員会 理事 船倉 一郎 (兵庫県立飾磨工業高等学校長)
兵庫県高等学校教育研究会情報部会 部会長 岩田 薫 (兵庫県立東播工業高等学校長)
大阪府高等学校情報教育研究会 会長 大峠 貴弘 (大阪府立豊中支援中学校長)
情報教育学研究会 (IEC) 代表幹事 中西 祥彦・矢島 彰
氷上情報教育研究会 会長 岸田 隆博 (丹波市立中央小学校長)

第 11 回情報教育合同研究会のお知らせ (最終報)

現行の学習指導要領の見直しが進む中、学校教育における「育成すべき資質・能力」について検討され、「情報活用能力」がその中で掲げられています。小中高等学校を通じた「情報活用能力」、また高大接続改革実行プランにおいては、大学入試や教員養成における「情報活用能力」の育成・評価が検討されています。今回の情報教育合同研究会では、小中高等学校および大学で育成すべき「情報活用能力」についての議論・提言、これからの情報教育のあるべき姿について考え、充実した情報教育の実現に向けた議論を深めたいと思います。ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

1. テーマ 『 小中高校大学の情報教育全般における「情報活用能力」を再考する 』
2. 日 時 平成 27(2015)年 11 月 14 日(土) 10:00 ~ 17:40
3. 会 場 園田学園女子大学 開学 30 周年記念館 4 階情報教育センター
兵庫県尼崎市南塚口町 7 丁目 29-1 TEL 06-6429-9909
4. 共 催 情報コミュニケーション学会情報教育特別委員会 兵庫県教育工学研究会情報教育部会
兵庫県高等学校教育研究会情報部会 兵庫県高等学校教育研究会工業部会教育工学委員会
大阪府高等学校情報教育研究会 日本情報科教育学会近畿・北陸支部
教育システム情報学会関西支部 情報教育学研究会 (IEC) 氷上情報教育研究会
5. 後 援 兵庫県教育委員会 尼崎市教育委員会 園田学園女子大学
6. 日程 受付 9:30~

【ワークショップ】 10:00~11:50

1. 中学校技術家庭科「プログラムによる計測・制御」実習
運営責任者 稲川 孝司 (大阪府立東百舌鳥高等学校)
 2. プレゼンテーション能力の新しい指導方法 (WTM) の体験
運営責任者 綿田 弘 (近畿大学)、稲浦 綾・横山 宏 (大阪電気通信大学)
 3. 「情報の科学的な理解」に関する内容をどう教えるか ~ 「情報のデジタル化」を例として~
運営責任者 高橋 参吉 (日本情報科教育学会 近畿・北陸支部)
 4. オリジナル映像教材導入による情報倫理教育のデザイン
運営責任者 村田 雅之・大島 武 (東京工芸大学芸術学部)
 5. 反転学習による iPad 活用演習 ~ アクティブラーニングとモバイルラーニング教育の体験・体感を目的としたワークショップ ~
運営責任者 庄司 一也・中塚 智子 (滋賀大学経済学部)
 6. プログラミングをさりげなく展開しませんか
運営責任者 山本 恒 (ICT 活用教育研究所)
 7. 教育機関の災害への対応と情報教育の役割
運営責任者 矢島 彰 (大阪国際大学・情報教育学研究会 (IEC))
- (昼食・企業展示) 11:50~13:00

【全体会】 13:00~17:40

- I. 開会・趣旨説明
- II. 講演 I (13:10~14:40)
 1. 小学校における情報教育の現状と実践報告 米田 浩 先生 (尼崎市立立花西小学校)
 2. 中学校における情報教育の現状と実践報告 末吉 克行 先生 (宝塚市立長尾中学校)
 3. 高等学校における情報教育の現状と実践報告 豊崎 晃 先生 (兵庫県立伊丹北高等学校)
 4. 大学における情報教育の現状と実践報告 中西 通雄 先生 (大阪工業大学)
- III. ワークショップ・ハイライト (14:40~15:15)
(休憩・企業展示) (15:15~15:40)
- IV. 講演 II (15:40~16:40)
「情報教育のこれからの方向」

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
(併) 文部科学省生涯学習政策局情報教育課 情報教育振興室 教科調査官

V. フォーラム(16:40～17:40)

『小中高校大学の教育全般における「情報活用能力」とは』

VI 閉会

【情報交換会】 開学30周年記念館2階チャティー (会費 3,000 円) 18:00～19:30

7. 参加費 無料(資料代 500 円 ただし共催後援団体会員は無料)
8. 参加申込み できるだけ 11/7(土)までに電子メール(jkgk15@sonoda-u.ac.jp)でお申込みください。
当日直接参加も可能です。なおワークショップは定員に余裕があるコースに限ります。
9. その他 駐車場がありませんので公共の交通機関をご利用ください。

◎お問合せ先: 情報教育合同研究会受付(園田学園女子大学情報教育センター 垣東)

電子メール jkgk15@sonoda-u.ac.jp

【ワークショップ詳細】(複数セッション同時開催 10:00～11:50)

1. 中学校技術家庭科「プログラムによる計測・制御」実習

運営責任者 稲川 孝司(大阪府立東百舌鳥高等学校)

このワークショップでは、ヴイストン株式会社から販売されている「計測制御プログラマー」を使って、温度や照度などを測定し、その瞬間の温度や照度とともに継続して測定して時間的な変化や特性を見つけて、そこからさまざまな機器を制御する方法を考えるという計測学習を提案し、実習を行います。教材の特徴は、制御プログラムがブロック型でアルゴリズムを考えフローチャートに置き換えると教材を制御ができ、プログラム言語を学習しなくても直感的に短時間で「順次・分岐・反復」の処理手順を理解することができます。

定員 20 名。教材費 1500 円(持ち帰り)。

2. プレゼンテーション能力の新しい指導方法(WTM)の体験

運営責任者 綿田 弘(近畿大学)、稲浦 綾・横山 宏(大阪電気通信大学)

学生の就活・ゼミ発表でのプレゼン指導において、「集中力が低く、思いのほか上達しない」という共通の悩みがあります。WTM(Watada Training Method)は、近大で実践中の指導方法です。

- 1) 意識を発表技術の指導から能力開発へ(技術とコンテンツを分離した指導)
- 2) 全員参加(役割分担)、1対1発表、即時採点など

参加者には、指導ビデオを題材に、指導ノウハウを体験していただきます。テキスト「学生たちのプレゼンハンドブック」(206 頁、近畿大学学生部 出版)や採点シートを配布します。

定員 20 名(5 名×4 グループ)。ワークショップの対象者は大学教員です。高校教員も受講可能です。ただし、能力育成のレベル設定が、大学生です。

3. 「情報の科学的な理解」に関する内容をどう教えるか ～「情報のデジタル化」を例として～

運営責任者 高橋 参吉(日本情報科教育学会近畿・北陸支部)

若い情報科の先生から、2 進数をどう教えたらいいのかわからない、情報の科学的な内容をうまく教えられないなどの悩みを聞くことがあります。このワークショップでは、まず、情報活用能力と共通教科情報科の関係について考え、「情報の科学的な理解」の重要性について説明します。つぎに、「社会と情報」、「情報の科学」の両科目の共通内容となっている「情報のデジタル化」について、Excel の学習教材の実習を通して、デジタル化の仕組みを考えていきます。

定員 20 名まで。主に高校情報科の教員対象。できれば、デジタルカメラ、記録メディア持参のこと。

4. オリジナル映像教材導入による情報倫理教育のデザイン

運営責任者 村田 雅之・大島 武(東京工芸大学芸術学部)

情報倫理教育において、禁止事項を列記するだけでは、受講者の興味を惹くことは困難です。そこで、ネット上の名誉毀損や誹謗中傷に関わる実際の事件を題材に、再現ドラマ、インタビュー、メッセージで構成された映像教材(DVD「情報倫理『ケーススタディ』」)と活用の手引き(指導用冊子)を開発しました。このセッションでは、教材の内容説明、大学授業に導入した事例紹介、同教材を用いた模擬授業、質疑応答を行います。参加者の方々と連携し、より効果的な活用法を模索していきたいと考えています。

定員 40 名、教育関係者および報道関係者の方々に限定させていただきます。資料（映像教材（DVD）、活用の手引き（冊子）ほか）の配布は、本セッションのフル参加者の方に限定させていただきます（途中入場、退室はご遠慮ください）。資料のみのお渡しはいたしません。

5. 反転学習による iPad 活用演習 ～アクティブラーニングとモバイルリテラシー教育の体験・体感を目的としたワークショップ～

運営責任者 庄司 一也・中塚 智子（滋賀大学経済学部）

情報活用能力研修の一環として、今回は iPad の使い方に関するワークショップを開催します。なお、事前学習として YouTube か滋賀大学の LMS で事前学習用ビデオを配信いたします。（アクティブラーニングの一形態としての「反転学習によるワークショップ」となります）その前提知識・技術をもって、当日は 1 人 1 台 iPad を貸与しますので、体験学習によりモバイルリテラシーを高めていただく取り組みとなります。

定員 10 名（iPad の台数の関係）。ワークショップの 2 週間前くらいに事前学習用ビデオを配信しますので、それを視聴することが前提となります。

6. プログラミングをさりげなく展開しませんか

運営責任者 山本 恒（ICT 活用教育研究所）

情報の授業は理科のように実験を取り入れながら科学的手法で理解を深める必要性を提案してきました。今回はさらに一歩進めて「今からプログラミングを教えます」という切り口でプログラミングを展開するのではなく、情報の授業全体の場面で、理解を科学的に深めるために、また問題解決の一手法として、自然にプログラミングを取り入れる方法を模擬授業をとおして提案します。情報教育でプログラミング技術は必須ですが、まずは自然と体験を通して身につけることが大切だと思います。当日扱う言語は Logo ですが、一つの言語にこだわっているわけではありません。

定員 15 名。マイクロワールド EX のポータブル版（Windows）を配布させていただきますので USB をご持参ください。

7. 教育機関の災害への対応と情報教育の役割

運営責任者 矢島 彰（大阪国際大学・情報教育学研究会 (IEC)）

阪神・淡路大震災から 20 年の今年、情報教育学研究会は、災害時の教育機関と教員の役割をテーマとします。教育機関は、災害時に人が集まり、情報を集め発信する場所となります。過去の大震災と違い授業時に災害が発生する可能性もあります。研究会メンバーと 2 名のゲストの発表を通じて、教育機関の対応や情報教育の役割について参加者と議論します。ゲストの京都女子大学の水野義之先生と愛知学院大学の中野健秀先生からは、阪神・淡路大震災時の ICT 活用経験、災害時の教育機関の対応事例や学生指導例について話をさせていただきます。

定員 特に制限なし。

【2015 情報教育合同研究会参加申込書】

2015 年 月 日

①お名前： _____

②ご所属： _____

③電子メール： _____

④ワークショップ参加希望：

ワークショップ 1 ・ ワークショップ 2 ・ ワークショップ 3 ・ ワークショップ 4
ワークショップ 5 ・ ワークショップ 6 ・ ワークショップ 7 ・ 受講しない

*希望のコースに○印を付けてください。折り返し、参加の可否をメールで連絡いたします。

*定員に余裕があるコースは当日でも参加できます。

⑤情報交換会： 参加する ・ 参加しない *どちらかに○印をつけてください

⑥お問合せ・参加申込書送付先：情報教育合同研究会受付（園田学園女子大学情報教育センター 垣東）

電子メール jkgk15@sonoda-u.ac.jp

FAX 06-6424-2188 (TEL 06-6429-9909)